



平成19年

あいさつ100%の推進

# 学校だより 5月 NO.2

http://www.funakoshi-e.educity.hiroshima.jp/ 広島市立船越小学校 平田健三



## 4年生は3学級で再スタート

5月1日より、4年生はそれまでの2学級から3学級に再編成してスタートすることになりました。1学級40名から1学級27名になるわけです。よりにくい、より細やかな指導が可能になります。しかし、既に2学級でスタートし、少しずつ新しい学級や友だち、先生と慣れ親しみ始めたところだけに、子どもたちや保護者の皆様には思いも複雑なこととお察しいたします。が、結果的には3学級になってよかったと喜んでいただけるよう全力を尽くします。4年生の担任は次のとおりです。どうかご理解、ご協力の程よろしくお願いいたします。

4年1組担任 森脇美穂子  
4年2組担任 須崎 鮎美  
4年3組担任 数井かおり

4月の学校だよりで本年度の本校教職員を紹介しましたが、それ以後に次の者が非常勤講師として勤務しております。よろしくお願いいたします。

初任者研修の後補充講師 金山 真理子

## PとTの連携こそ

授業参観並びに PTA 総会(4月28日)には、多数の保護者の皆様にお越しいただき誠にありがとうございました。4年生の保護者の皆様には授業参観の時間帯に役員決めをお願いしました。急なことでいろいろと無理をお願いしましたが、快く取り組んでいただき大変ありがたく思っております。

PTA 総会では、稲垣潤哉 PTA 会長様をはじめ本年度の新役員、事業計画や予算案等がすべて承認され、いよいよ PTA 活動もスタートとなりました。学校は保護者、地域の理解と協力がなければ有意義な教育活動は行えません。なかでも PTA 役員の皆様のお力は大変大きなものがあります。どうか私たち学校教職員とスクラムを組んで子どもたちの健全育成のために力を発揮していただきますようよろしくお願いいたします。

また、PTA 会長稲垣潤哉様からは、昨年度からの継続取り組みとして、船越小学校 PTA

活動重点3項目を次のとおり示され、会員の協力を強くお願いされました。学校としても大変心強くありがたく思います。PとTの連携をよりいっそう強めてまいりたいと思います。

**登校指導当番の遵守**  
あいさつ100%の推進  
**基準服着用の徹底**  
上着、ズボンは黒か紺系統。ズボンは半ズボンです。

## しつけを考える

「仕付け」は裁縫用語にあります。縫い目が狂わないようにあらかじめ仮に縫っておくことです。「しつけ」は、着物の「仕付け」が語源のようです。子どもの頃からしつかりと折り目正しくしつけておくことが必用です。

つぎの詩に登場する母親は、「しつけ」をする親の理想的な姿にも感じられます。

うそ  
一年 ごうだ なおと  
ぼくは学校をやすみしました。  
おかさんにうそをついたからです。  
なんのうそかというといえませんが。  
おかさんをなかせしてしまいました。  
ぼくもなきました。  
おかあさんは  
こんなおもしろくない子とは  
おもわんかった。  
こんなくやしのおもいしたのは  
はじめてやといいました。  
ぼくはあほでまぬけで  
ばかなことをしたとおもった。  
ぼくもかなしくてころがいたい。  
それでもおかあさんは  
なおちゃんのことだれよりもすきやでと  
だきしめてくれました。  
もうにとしません。  
(鹿島和夫・灰谷健次郎『一年一組せんせいあかね』  
理論社一九八一年)

「しつけ」とは「身」を「美しく」と書きます。「躰」です。「しつけ」は心の問題ではないのです。動作の「型」なのです。  
他者にどういふ身体の動きが美しく感じてもらえるかという立ち居振る舞いなのです。この立ち居振る舞いは、多くの日本人が長い年月をかけて鍛えてきた大切なものなのです。頭では学ぶことができず、理屈抜きの訓練によって得られるものなのです。何度も何度も繰り返して、ある日突然にその意味が分かるものです。  
(星一郎『はるかプラス』〇七年五月号 三二p)

豊かさの中で人を教育するのと、貧しさの中で人を教育するのでは全くちがうですよ。「貧しさは最大の教師」と言われますが、まさにそのとおりです。・・・だから個人も社会も制度も、意図的がまんせざるを得ないような欠乏状態をつくりださないといけない。それがしつけですよ。(評論家大宅映子『はるかプラス』〇7年4月号p9)